

登録コード	BS107500	開講年度	2026	大学院共通科目	県内大学履修科目	
授業題目	大学院と社会				担当教員	LI MIN
英文授業名	Graduate Education and Society				副担当	
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2026BSカリ, 2025BSカリ, 2024BSカリ, 2023BSカリ					
	【研究科共通】さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力				日本社会・国際社会に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力	
	【研究科共通】深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力				幅広い教養知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力	
(2)授業の概要	本講義では、大学・大学院教育の歴史と構造、労働市場の構造、大学院修了者のキャリアパス、および高等教育の国際化について学びます。 第一部では、大学・大学院教育の歴史的発展と現在の構造・特徴を扱います。特に、海外の大学院教育と比較しながら、日本の大学院の特徴と課題について分析します。 第二部では、大学院教育と労働市場との関係性に焦点を当てます。日本の大学・大学院教育を大きく規定する労働市場の特徴を考察するとともに、大学院教育の現状と修了者のキャリアパスについて検討します。また、修了後のキャリアを見据え、大学院教育の価値を高めるための人的資本、文化資本、社会関係資本の構築について議論を深めます。					
(3)授業計画	第1回 Introduction (第1部 大学・大学院教育の歴史と現在) 第2回 - 3回 大学の誕生と発展 第4回 - 5回 日本の大学の誕生と発展 第6回 日本の大学院教育 (第2部 大学院教育と労働市場) 第7回 大学院修了者の進路 第8回 日本型経営・雇用システム(読書レポートの提出) 第9回 大学院出の価値 - われわれはなぜ大学院に進学するのか 第10 - 13回 いかにして、大学院教育の価値を増やすのか - 人的資本・文化資本・社会関係資本の構築 第14回 学歴社会から学習歴社会へ 第15回 まとめ					
(4)成績評価の方法	毎回の授業内容について、コメントを提出してもらうことで出席とします。 3点×15回=45点 (コメントをもって出席) レポート:40点×1回=40点 コメントの質の総合評価(特に第8回):15点 映像、添付資料の閲覧履歴のない場合は履修済みとは扱わない。 レポート:読書に関する発表(授業で紹介した文献を中心に)					
(5)成績評価の基準	【レポートの成績評価の基準】 問題の設定が適切であり、その問題の背景を説明できており、その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば、「卓越している」。 ～ の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。					
(6)事前事後学習の内容	指定の教科書はないものの、授業中に文献を多数取り扱うので、必ず目を通すことが必要である。					
(7)履修上の注意	・本授業はオンデマンド式の授業方式を採用する。毎週の日曜日(20:00)までに内容をeALPSにアップしておきます。 ・授業の次の週の日曜日20:00までに受講し、コメントを提出します。 ・授業と関係資料の閲覧、授業へのコメントを以て、出席とする。 ・本授業は授業外で関連文献の閲覧を要求されている。 ・履修者、授業の理解度に応じて、シラバスの微調整があり得る。					
(8)質問、相談への対応	授業時間外はオフィスアワーを設定して対応する。メールでのやり取りも可能である。 lmin@shinshu-u.ac.jp					
(9)その他						
【教科書】	指定しない。授業の時に、次回の授業の内容に関する必読文献を知らせる。					

【参考書】	B.R. クラーク（2002）『大学院教育の国際比較』玉川大学出版部 江淵一公（2007）『大学国際化の研究』（オンデマンド版）玉川大学出版部 濱中淳子（2009）『大学院改革の社会学：工学系の教育機能を検証する』東洋館出版社 Freeman, Richard B,1976, The Overeducated American, Academic Pr.（=小黒昌一訳「大学出の価値：教育過剰時代」竹内書店新社, 1977） 水月昭道（2007）『高学歴ワーキングプア「フリーター生産工場」としての大学院』光文社新書。 榎木英介（2012）『博士漂流時代「余った博士」はどうなるか?』ディスカヴァー・トゥエンティワン。 潮木守一（2009）『職業としての大学教授』（中公叢書）中央公論新社。 矢野真和・濱中義隆・浅野敬一（2018）『高専教育の発見—学歴社会からへ』岩波書店。 上記以外にも多数あり。授業中に随時紹介する。
-------	---